

身近な自然の保全 茶屋ヶ坂池池干しに110人が参加

なごや生物多様性保全活動協議会（事務局：なごや生物多様性センター）主催

平成25年11月17日（日）千種区の茶屋ヶ坂池の水位を下げ、詳細な生物調査を行いました。この調査には、地域の方々や市民生きもの調査員の方など約110人が参加しました。

茶屋ヶ坂池は、生きものすみかとして貴重な空間です。調査の結果、在来の生物ではモツゴやニホンイシガメ、ヌマガイ、ヒメタニシなどが確認できました。あわせて、在来生物の生息生育環境を守るために、オオクチバス（ブラックバス）など、外来魚を中心におよそ1トンの外来種を取り除きました。



「ため池生きもの同定講座（魚・カメ初級編）」
実際に生体や標本を見ながら、種の同定に挑戦しました。



調査で見つかった生きものの展示

調査では、オオクチバスをはじめ、ブルーギルやカタヤシ、ソウギョなど、本来はこの場所にいない生物が、在来種を上回る量で生息している事が確認されました。このことから、生物が人の手によって本来の生息地から動かされたり、飼育されていたものが野外に放されたことが分かります。もともとこの場所にいなかった種が人によって移されることにより、その場所での本来の生態系のバランスが崩れてしまう恐れがあります。今回、高密度で生息していた大型の外来魚を取り除いたことで、捕食され数が少なくなっていた在来の魚類・昆虫類・貝類・水生植物などが増えることが期待されます。

なお、今回の調査を行うにあたり、複数の池で予備調査を行ったほか、「同定講座」を開催して市民生きもの調査員の方に魚やカメの見分け方を学んでいただきました。また、池の水位を下げたことにあわせて、参加者の安全と生きものすみよい環境作りのため、池のごみ拾いを行いました。「事前講習会」では参加者の皆さんに茶屋ヶ坂池の生物や池干しの意義などについて知っていただき、朋長靴の着用練習をしました。

今後は、池干しによる効果や影響を確かめるため、継続したモニタリングをしていきます。

選別の様子



池干しに伴う事前・当日調査で確認された生物（速報）

※黒字は在来種
青字は外来種
緑字はその他

- は虫類**
 - カメの交雑個体
 - クサガメ
 - ミシシippアカミミガメ
 - ニホンイシガメ
 - シマヘビ
 - ニホンスッポン（アルビノ品種）
- 魚類**
 - ブルーギル
 - ドジョウ
 - フナの仲間
 - ゲンゴロウブナ
 - カタヤシ
 - カムルチー
 - キンギョ
- 両生類**
 - ウシガエル
- 水生植物**
 - ヒシ
 - ホテイアオイ
 - キショウブ
 - コカナダモ
 - マツモ
 - ヨシ
- 貝類**
 - ヒメタニシ
 - ヌマガイ
- その他**
 - オオマリコケムシ
- 昆虫類**
 - トンボの仲間（ヤゴ）
- 甲殻類**
 - アメリカザリガニ
 - スジエビ
 - テナガエビ

オオマリコケムシ
特異な姿をしていることから、参加者の注目を集めていました。小さな個体が集まってこのような形になっています。詳しい生息はよく分かっていません。

創立30周年を迎えた 名古屋自然観察会

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（（公財）日本自然保護協会による認定資格者）によって、1982年に結成され、現在の会員数は約110名です。主な活動は、「身近な自然に親しみ、その自然を理解し、守る」ための自然観察会を運営したり、それに伴う環境保全活動を行っています。

当会会員によって、現在、名古屋市内の10箇所の緑地や公園でその自然の特色を生かした定例観察会が運営され、行政との協働で行うものも含めて、年に約120回の自然観察会を実施しています。この中には、身体にハンディーのある方を対象にした「ネイチャーフィーリング観察会」や子供の自然体験を目的とした「なごや自然教室」などの特色ある観察会も含まれています。

また、環境保全に関わる活動として、カシノナガキクイムシによる被害や海浜植物、竹林などの調査を行ったり、環境学習プログラムを開発し、環境サポーターを保育園などに派遣したりして、行政などによるESD（持続可能な開発のための教育）などの事業に協力しています。

今年も、名古屋の田んぼの生態系や現状を学ぶための観察会を企画しました。限りある地球の中で、名古屋市に残された身近な自然を如何にして後世に残すかを今後とも考えていきたいと思ひます。

「市民生きもの調査員」に登録しませんか？

なごや生物多様性センターや協議会が主催・協働・協力する生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。調査結果なども随時お知らせします。

市民生きもの調査員 武安 沙央里さんからメッセージをいただきました

市民の仲間と自然を見つめる

名古屋に引っ越してきて、「なごや生物多様性センター」の存在をイベントや配布物で知り、「市民生きもの調査員」として各種イベントに参加しています。外来の植物「オオケイケンギク」を調査では、市内の河川敷など多数のコースが設定され、皆さんが身近なコースを選択して調査しました。私もお子さんからご年配の方までの幅広い層の方々と一緒に鳥やカメを見つけたり、昔話なども聞きながら散策ができ、気持ち良い調査ができました。メールで案内される各種イベントに参加することで、同じ市民として様々な立場の方と接することができ、専門家のお話を聞く機会もあります。身近な自然について話せる仲間ができたことを大変嬉しく思ひますし、調査や学びあう会に参加することで、地名や名古屋市の自然の状況も把握できます。今後も市民の皆さんと一緒に身近な自然にふれていきたいです。

問い合わせ・申し込み先

住 所 名古屋市天白区元八事五丁目230番地（地下鉄塩釜口2番または3番出口から徒歩5分）
電 話 052-831-8104 FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp



- なごや生物多様性センターウェブサイト
<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>
- なごや生物多様性センター Facebookページ
<https://www.facebook.com/bdnagoya>
- 名古屋市公式ウェブサイト
<http://www.city.nagoya.jp/> 検索
- なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>

定例観察会の開催日

詳しくはウェブサイトをご覧ください。
<http://www.nagoyashizen.net/>

第2土曜日	小幡緑地自然観察会 猪高緑地自然観察会
第2日曜日	平和公園自然観察会 大高緑地自然観察会
第3木曜日	呼続公園自然観察会
第3土曜日	牧野ヶ池緑地自然観察会
第3日曜日	東山自然観察会
第4土曜日	明德緑地自然観察会
第4日曜日	相生山緑地自然観察会
奇数月 第4日曜日	庄内緑地ネイチャーフィーリング 自然観察会

ご参加
お待ちして
います！

（代表 滝田久憲）

生物多様性に向けての取組み事例をお寄せください。このニュースレターで紹介していきます。（すべて掲載できない場合もありますので、ご了承ください。）

登録方法

①氏名、②連絡先の電子メールアドレス（無い場合はFAX番号）、③住所、④所属（NPO等に所属している場合）、⑤学生・社会人・その他の別を書き、電子メールまたはFAXでお申し込みください。

申込先

bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
FAX052-839-1695

※このサービスへの登録および利用料は無料です。（ただし、登録やメール受信にかかる通信料は利用者負担となります。）
※ご案内は登録された方全員に送信しますが、活動の内容によっては年齢、人数を制限し、参加いただけない場合があります。ご了承をお願いします。

お願い ご案内は、主にPDFファイルでお送りします。パソコンなどで利用されているPDFファイルが受信可能な電子メールアドレスでの登録をお願いします。（FAXでの登録も可能ですが、提供できる情報が少なくなります。）



このニュースレターは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

9号

平成26年1月

生物多様性カフェ

「生物多様性カフェ」は話題提供者と参加者が和やかな雰囲気の中で生物多様性について語り合うトークライブ。平成25年12月14日（土）は午前、午後の2回開催しました。

「もし鳥だったら、あなたは？」

日本野鳥の会愛知県支部 前支部長
新實 豊さん



姿を見ない日、声を聞かない日は無いほど身近な存在である鳥。鳥が飛ぶために得たもの、捨てたもの。鳥の翼やくちばしはどのような役割をしているのか。「超」偏食で、婚活が「いのち」等、鳥の日常を楽しく、わかりやすく伺いました。



くちばし模型（実物大）



ヒヨドリ カルガモ オオタカ ハシブガラス

「自然史博物画と親しむ」

NPO法人 nature works 理事長 人を自然に近づける「川い会」代表
小村 一也さん 石山 郁慧さん



「博物画」とは、理科美術または標本画のこと。現代は手軽に記録できるデジタル機器がありますが、図鑑や専門書の分野で、また、生物をじっくり観察する眼を養うためにも大きな役割を担っています。

正確な文献、資料、監修と助言、近縁種との比較など精度の高い情報があれば、絶滅した生物でも再現できます。



絶滅種「ミナモトミヨ」の生態想像図（小村さん作）


生物多様性カフェ 次回は2月16日(日) 参加募集 「なごや生物多様性センター」で開催します

時間・テーマ・話題提供者	メッセージ	略称
10時～11時30分 「なごやの森」への招待状 ～もりの声を聞いてみませんか～ なごや東山の森づくりの会長 滝川正子さん	生きものや生きものたちのつながりを育む森の不思議をお話します。主な対象を中学生・高校生とする「ユース編」として実施しますが、参加を希望される小学生の方は保護者の方とお申し込みください。また、お席に余裕がある場合は大人の方だけでもご参加いただけます。	森
13時～14時30分 子どもの気づきは未来へつながる 東海学園大学教育学部教授 木村美知代さん	乳幼児期は「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期」です。自然とのふれ合いの中で、子どもたちが様々な感じとり、気づき、発見して学んでいく姿を紹介します。周囲の大人はどのように接し、支えていったら良いか、一緒に考えてみませんか？	子ども
15時30分～17時 パピヨンから見える生物多様性 名古屋昆虫同好会会長 間野隆裕さん	パピヨンとはフランス語でチョウとガのこと。ふだん見慣れたチョウやガにも私たちの知らないことがいっぱいあります。また、周りの生きものと密接なつながりを持って自然界の一端を担っています。その秘密と一緒に解き明かしましょう!!	パピヨン

申込方法 ①参加希望のプログラムの略称「森」、「子ども」または「パピヨン」を明記し、②氏名、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤「森」については学年)を書き、Eメール、FAXまたはハガキで「なごや生物多様性センター」までお送りください。複数のプログラムに参加希望の方は、プログラムごとに分けてお申し込みください。

定員 各回40名(応募多数の場合は抽選) **締切** 2月5日(水) ※「参加票」は締切日以降に発送します。

名城大学ボランティア協議会 環境部門代表 栗田明華さんから感想をいただきました



カフェでは生物多様性について色々な視点から学ぶことができるため、興味深くとても勉強になります。

「NO COFFEE, NO LIFE ～コーヒーがもっとおいしくなる話～」の回では、これまでコーヒーを飲むときに意識して考えたことなかった世界各国のコーヒー豆の栽培方法や、豆の種類、国による味の違いなど多くのことを知り、その奥深さに触れることができました。コーヒー栽培において、肥料を施さない方が生育の良い豆ができる場合もあるらしく、世界の肥沃な土壌の存在、有機農業の素晴らしさに感銘を受けました。

今後も、このような活動を通して環境や生物多様性について考えていきたいと思います。

生物多様性カフェは次の皆様のご協力をいただきながら実施しています。

【協賛】イオン八事店、坂角総本舗、ポタイン珈琲本社、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(50音順)

【運営補助】名城大学ボランティア協議会

♪センターの事業は市民、事業者、研究者など多様なセクターの皆さんとの連携・協働の輪を広げながら進めて参ります。一緒に取組みませんか?お問合せ、ご参加など歓迎します。

なごやの生きもの調査報告会

(主催)なごや生物多様性保全活動協議会(事務局:なごや生物多様性センター)

日時 2月2日(日) 10時～15時

場所 熱田神宮 文化殿 講堂

内容 (午前の部)約30年ぶりに行った熱田神宮の生物調査の報告 (午後の部)池干しやオオキンケイギクの一斉調査などについて報告

定員 200名(応募多数の場合は抽選)

申込方法 ①行事名、②氏名、③郵便番号・住所、④電話番号を書き、Eメール、FAXまたはハガキで「なごや生物多様性センター」まで。午前または午後の部のみの申込みも可能です。締切1月24日(金) ※「参加票」は締切日以降に発送します。

UNDB-Jが「Iki・Tomoパートナーズ」メンバーを募集しています

生物多様性の主流化に取組む「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」は、「Iki・Tomoパートナーズ」を立ち上げ、生物多様性の保全や持続可能な利用に向けて自ら行動する個人・団体・事業者の皆さんの参加を求めています。詳しくはFacebookページ(https://www.facebook.com/UNDBJ/)をご覧ください。なお、メンバー登録は同Facebookページに「いいね!」をするだけで完了です。

名古屋公式キャラクター「やっとかめ だなも」はじめ全国81の仲間が「生物多様性キャラクター応援団」となってUNDB-Jの活動を盛り上げています。



なごやの生態系を守るため アライグマの防除 ～市民協働で取組み～



市民協働による捕獲農の使用法などを説明している様子

なごや生物多様性センターでは、生態系保全のため、市民協働でアライグマ防除に取り組んでいます。

また、市内では生活被害・農業被害が報告されているため、健康福祉局や緑政土木局と情報共有し対応を検討するとともに、被害防止のためにチラシを作成し、以下の3点を呼び掛けています。

- エサになるものを放置しない
- 家屋への侵入を防ぐ
- 見かけても触れないようにする

さらに、アライグマは市域をまたいで移動する可能性があるため、関係機関や周辺市町村とも情報交換をしています。(ニュースレター8号で報告しています。バックナンバーはウェブサイトでご覧いただけます。) http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/material/symphony_8th.pdf

この号では、なごや生物多様性センターを拠点に行っている防除事業を中心に報告します。

見分け方のポイント

- アライグマ(特定外来生物)**
 - *尾は長く、リング状の縞模様がある。
 - *目のまわりから頬にかけてははっきりとした黒いマスク状の模様がある。
 - *眉間に黒い筋がある。
- タヌキ(準絶滅危惧種)**
 - *尾は短く、縞模様は無い。
 - *四肢が短く、すんぐりしている。
 - *足はほぼ全体が黒い。
 - *耳先は丸い。

緑地と街を行き来して名古屋の環境に順応したアライグマ

1 はじめに

アメリカ合衆国を原産とするアライグマは、ここ名古屋において、緑地やため池といった自然環境だけではなく、市街地の環境にも順応して分布を広げました。2000年代前半までは名古屋市北部を中心に生息していましたが、今では市のほぼ全域に進出し、様々な問題を引き起こしています。ここ数年、アライグマが原因と推測される在来生物への被害が多数見つかっています。特に名古屋市内では、日本固有種で絶滅危惧種のニホンシシガメやカスミサンショウウオへの咬傷被害が懸念されています。その他、私たちの目の届かない所で様々な在来生物への被害があるのかもしれない。人への影響という点では、人家への侵入や糞害、足音や鳴き声といった騒音、飼育している金魚や鯉への食害といった被害もよく聞かれるようになりました。

2 現在のとりくみ

そのような中、なごや生物多様性保全活動協議会のアライグマ対策部会が中心となって、2012年よりアライグマの捕獲調査を始めています。アライグマの捕獲は外来生物法に基づく防除の確認を受け、2012年からは小幡緑地とその周辺地域、平和公園、2013年からは東谷山周辺の湿地で捕獲を試みています。これらの地域での捕獲活動は、在来生物を守るという「生態系保全」の一環として実施しています。一方、緑地だけではなく、人家での被害情報が寄せられた北区や西区、東区、千種区の市街地では、地域の協力が得られるところで試行的に捕獲をはじめています。2年間で、緑地や

(生物多様性専門員 野呂 達哉)



アライグマによるものと思われるニホンシシガメへの咬傷被害(昭和区)



家屋のひさしに残された糞(北区)



学生を集めてアライグマの解剖実習(なごや生物多様性センター)



市街地のアライグマ(北区)

緑地のアライグマ(守山区)

オニバスは今 3

2012年11月に名古屋城外堀で20年ぶりにオニバスが確認されました。今号では、このオニバスの2013年を記録します。



細長い楕円形の浮葉を展開する小さなオニバスを20株ほど確認しました。



水面に展開する浮葉は丸い葉に置き換わり、植物全体にトゲが生えてきました。



4株のオニバスが順調に生育を続け、浮葉の大きさも70cmほどになり、水面には10個ほどの開放花を確認しました。



熟した果実からは多くの種子が確認されました。

オニバスは一年草の植物のため、初夏に発芽した個体も秋には種子を残して枯れてしましますが、今回もまた多くの種子が確認されました。これらの種子によって次の世代へと受け継がれ、今後も名古屋城外堀でオニバスなどが生育し続けることを願っています。

(生物多様性専門員 中村 肇)

市内では20年ぶりとなるオニバスの確認については、ニュースレター 6号・7号・8号でもご報告しています。